

令和7年
4月11日
農林水産省に要望書を提出しました。



笹川博義 農林水産副大臣に要望書を手渡す様子

昨年、会津地方を中心に発生した記録的な大雪により、農業施設や畜舎などが甚大な被害を受けました。その復旧に向けた支援を求めるべく、自民党県議団として農林水産省へ要望書を提出いたしました。



農林水産部会の様子



委員長報告（整理予算）の様子

近未来都市福島の可能性
～若者が地方創生をICTで切り拓く～



地域と若者を繋ぐ、シンポジウムに参加。



地方創生を考えるグループワークの様子

2025年3月30日、「創造郡山」主催のシンポジウムに参加しました。地方創生とメタバースに関する講演やVR体験を通じて、最新技術と地域の繋がりを学び、若者の声をまちづくりに活かすためのグループワークでも有意義な意見交換が行われました。

福島県議会議員

佐藤てつや

誰もが誇れる“ふるさと”の創造

春の日差しが暖かい今日この頃、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、先月に開かれた令和6年度2月県議会定例会の総括審査会において、計8問の総括質疑をさせていただきました。今回は、その中から3つの質問についてご紹介します。

「総括質疑」とは定例会の終盤に行われ、議案に対する質疑のみでなく、会派が気づいたこと、強く推進したいことを一問一答方式で行うものです。再質問に制限がなく、一つの質問を深く掘り下げることも可能です。今回の総括質疑では、教育行政について複数回、掘り下げて質問しています。ぜひご一読ください。



↑総括審査会の様子



総括審査会にて
計8問の総括質疑を
行った時の様子→

“佐藤てつや”はこれからも、皆様の抱えているお悩みごとを
ひとつひとつ解決するべく、精進して参ります。

これからも変わらぬご支援とご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。

福島県議会における佐藤てつやの質問と解説

地方創生について

Q 本県において、若者の県外流出が深刻化しており、「若者・女性にも選ばれる地方」を目指して取り組むことが大変重要であると考えます。
そこで、**知事は、若者や女性の県内定着・還流にどのように取り組んでいくのか、お尋ねいたします。**

A 新年度、新たに官民連携・共創チームを立ち上げ、若者や女性の県内定着・還流に向けた議論を深掘りし、より効果的な施策の構築に繋げるほか、若者・女性が働きやすい職場づくりへの支援や企業情報の発信強化など、若者や女性の声や思いを大切にした取り組みを重点的に進めてまいります。

Point! てつやの解説
知事に答弁いただいた質問です。
本年1月に石破総理は、施政方針演説において、地方創生2.0を「令和の日本列島改造」として強力に推し進めていく決意を示し、その柱の一つとして、「若者・女性にも選ばれる地方」を掲げました。人口減少や東京圏への一極集中の流れを変えるには「女性や若者にも選ばれる福島」を作っていかなくてはなりません。

地域公共交通について

Q **県は、交通空白地の解消に向け市町村が行う生活交通対策への支援に、どのように取り組んでいくのかお尋ねいたします。**

A 県ではコミュニティバス等の運行に加え、AIを活用したデマンド交通など、本格運行に移行するための実証事業に対しても補助を行っているところです。新年度は多様な移動手段の確保のため、ライドシェアの実証事業に対する補助制度を創設するなど、支援の強化充実を図り、市町村と連携し、交通空白地の解消に取り組んでまいります。

Point! てつやの解説
国は、昨年7月に交通空白解消本部を設置し、令和7年度から3年間を集中対策期間と位置付け、ライドシェアを含め、地域住民や来訪者が公共交通を利用できない交通空白地の解消に向けた対策を推進することとしています。交通空白地の解消にあたっては、基礎自治体である市町村がその中心を担うものでありますが、財政的支援を始め、県としてもしっかりと支えていく必要があると考えます。

教育行政について

Q 衆議院本会議で2025年度予算案が可決されました。私立も含めた高校授業料無償化に関する措置などを盛り込む修正が行われ、受験生を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。
そこで、**県教育委員会は、県立高等学校の特色化にどのように取り組んでいくのかお尋ねします。**

A 生徒の興味・関心や社会のニーズを踏まえ、医療従事者・教員等を志す生徒の職業観を養うための普通科でのコース制の導入や、地域・企業と連携した商品開発・就業体験など専門高校における探究的かつ実践的な取り組みを推進し、県立高校改革を着実に進めながら、生徒から選ばれる特色ある学校づくりに取り組んでまいります。

Point! てつやの解説
これまで、授業料が安い公立高校と授業料は高くても、インターネット環境や部活動の設備などが充実し、専門的な教育が受けられる私立高校といった住み分けが出来ていたのですが、その垣根がなくなります。少子化が進む中、県立高校は「特色ある選ばれる高校」でなければいけないと考えます。

その他の質問
●移住の促進について　●特定再生資源物の屋外保管について　●働き方改革について
●県発注工事における一抜け・一括審査方式について　●交通安全について

参考 教育行政について4回、働き方改革について2回、交通安全について2回の質疑を行いました。

佐藤てつや プロフィール



↑シンポジウムでの講演の様子

昭和43年4月19日生まれ。

郡山市鶴見坦出身
郡山市立薫小学校卒業
郡山市立郡山第一中学校卒業
福島県立郡山高等学校卒業
工学院大学専門学校
夜間部建築科研究課程卒業



●趣味／音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦、キャンプ
●特徴／身長180cm、常にパワー全開！元気一番！妻、ネコ2匹と暮らしている。

平成18年	郡山市立薫小学校 父母と教師の会会長（平成22年まで）
平成21年	郡山市PTA連合会副会長
平成23年	郡山市立郡山第一中学校PTA会長
平成23年	郡山市議会議員（連続3期）
平成26年	福島県立安積黎明高等学校PTA会長
令和４年	福島県議会議員（2期目）

所属委員会
◆農林水産委員会（副委員長）
◆少子高齢化・地域活性化対策特別委員会

皆さんの声、ぜひお聞かせください！
佐藤てつや事務所
〒963-8862 郡山市菜根三丁目39-7
E-mail：sugar503@cameo.plala.or.jp
TEL.024-934-2585
FAX.024-926-0943
X（旧Twitter） @satotetsuya963
Instagram @satotetsuya963
SNSで情報を発信しています！